

聖書
テーマ
暗唱聖句

ヨハネ 19・28～30

十字架による救い

イエスはそのぶどう酒を受けて、「すべてが終った」と言われ、首をたれて息をひきとられた。

ヨハネ 19・30

目標

キリストが十字架上で成し遂げられたみわざに信頼し、神との交わりに生きる。

4月5日（日）

聖書
聖句

ヨハネ 19・28～30

すると、イエスはそのぶどう酒を受けて、「すべてが終った」と言われ、首をたれて息をひきとられた。 30節

父なる神様は、天地のすべてのものを造られ、創造のみわざを「完成」させられました。きょうのみ言葉は十字架の上で叫ばれた七つのみ言葉の六番目です。これは、御子イエス様が、あがないのみわざを「完成」された叫びです。罪のないイエス様の上に、私たちの罪が置かれ、イエス様は身代わりに罪人として、神様からの刑罰、死を受けてくださいました。このイエス様を信じるなら、すべての罪がゆるされ、滅びより救われます。信じましょう！

いのり 天のお父様、イエス様が十字架の上で救いを完成してくださいました。ただ信じ、救われますから感謝します。

4月6日（月）

聖書
聖句

ルカ 23・32～38

父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。 34節

十字架上の第一言です。あなたはすぐに「ごめんなさい」と言える子どもですか？ 人間はみんな、神様に「ごめんなさい」とは、なかなか言えないのです。だから、そんな私たちに代わって、イエス様が十字架にかかって、「神様ごめんなさい」と言って、とりなしてくださいました。「神様、あの子をゆるしてください。自分で何をしているのか、わからないでいるのです。わたしが代わりに罰を受けていますから、どうぞゆるしてください」と祈られたのです。

いのり 天のお父様、イエス様のとりなしのお祈りをありがとうございます。私の罪をどうぞおゆるしてください。

4月7日（火）

聖書
聖句

ルカ 23・39～43

よく言うておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいろであらう。 43節

十字架上の第二言です。世の中のひとを大きく二つに分けると、男と女に分けられます。それともう一つ！ この場面のようにイエス様の十字架をまん中に、右と左に分けられるのです。いつまでもイエス様に悪口を言いつづけて、イエス様を信じなかった犯罪人のような人。反対側の犯罪人は、きっとイエス様のお祈りの言葉を聞いて、ハッとわかって、イエス様を救い主と信じて「わたしを思い出して下さい」といったとき、きょうのみ言葉が語られたのです。

いのり 天のお父様、私もイエス様を救い主と信じます。きょうイエス様と一緒にパラダイスにいろを信じます。

4月8日(水)



ヨハネ 19・23～27

「婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの母です。」 26～27節

十字架上の第三言です。はげしい、はげしい十字架の痛みの中で、イエス様のやさしい、愛のあふれるお姿です。十字架のもとで、心も張りさけそうに悲しみにくれているお母さんのマリヤさんのことを、思っ^{おも}てあげたイエス様でした。イエス様の愛を心に感じ、イエス様をだれよりも愛していたお弟子のヨハネさんに、お母さんのめんどうを見てもらうように、十字架の上から話しかけられました！ 私の心にも、こんな愛とやさしさを満たしてください。

いの

祈り 天のお父様、イエス様がどんな苦しみの中にも愛にあふれておられたことを知り、ただ感動してしまいます。

4月9日(木)



マタイ 27・45～56

わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。 46節

十字架上の第四言です。このみ言葉は、イエス様のあがないのみわざが、たしかに成しとげられたのだということを証明する、とても大切なみ言葉です。「どうしてわたしをお見捨てになったのですか」とは、イエス様は捨てられるようなことは何もしていませんということと、ここでイエス様の上に永遠の刑罰がくだって、本当に父なる神様から捨てられたのだ！ ということがハッキリわかるのです。イエス様、私のために捨てられてくださり、ありがとうございます！

いの

祈り 天のお父様、このイエス様の叫びのみ言葉を感謝します。身代わりに捨てられてくださったイエス様を信じます。

4月10日(金)



ヨハネ 19・28～30

わたしは、かわく 28節

十字架上の第五言です。あつ—い夏がまたやってきます。すると、毎日、のどがかわくよ—と、がぶがぶ、水やお茶やドリンクを飲んでしまいますね。十字架の上のイエス様は、血を流されつづけ、そのかわきようは大変なものでした。「わたしは、かわく」と言われ、さし出された酸いぶどう酒を受けられました。これも聖書の預言のとおりだったのです！「わたしのかわいた時に酢を飲ませました」(詩篇69・21)とあるとおりで、感心します。

いの

祈り 天のお父様、イエス様のご生涯は初めから終わりまで、聖書のとおりでした。わたしにもならわせてください。

4月11日(土)



ルカ 23・44～49

父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。 46節

十字架上の第七言です。人として来られた神の御子イエス様の、地上最後の瞬間です。昼の十二時から午後三時ごろまで昼間なのに太陽は光らなくなり、全地が暗くなりました。聖所の幕が二つにさけて、イエス様は大声で叫ばれたのです。「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます！」と。イエス様を救い主として信じているなら、私たちもやがて地上での終わりの日を迎える時、イエス様のように叫べるのです。救われていることは本当に幸いです。

いの

祈り 天のお父様、私も救われて、地上での終りの時、あなたのみ手に、わたしの霊をおゆだねできますように。

イースター



聖書
テーマ
暗唱聖句

ヨハネ 20・11～18

復活の主との出会い

女よ、なぜ泣いているのか。

ヨハネ 20・13

目標

悲しみの涙を取り除く、復活の
キリストに出会う。

4月12日(日)

聖書
聖句

ヨハネ 20・11～18

女よ、なぜ泣いているのか。

13節

あなたが今までで一番つらくて、悲しくて、
いっぱい泣いて、いっぱい涙を流したのはどん
な時だったのでしょうか？ ここでマグダラのマ
リヤは、こんな悲しいことがあるかしらと、涙、
涙で、泣き続けたのです。それは大好きな、愛
するイエス様が十字架につけられて死んでしま
い、お墓におさめられたのに、三日目に行って
みると、イエス様のおからだがないのです。
「女よ、なぜ泣いているのか」と声をかけられ
たのは、復活の主だったではありませんか。

いの
祈り

天のお父様、イースターをありがとうご
ざいます。復活されたイエス様は悲しみ
の涙をふき払ってください感謝します。

4月13日(月)

聖書
聖句

ヨハネ 20・11～12

しかし、マリヤは墓の外に立って泣
いていた。 11節

空っぽのお墓をのぞきにやってきたのは、ペ
テロとヨハネだったのです。ペテロといえば…
そう！ もう、だれもがみとめるイエス様の
一番弟子でしたよ。ヨハネといえば、「イエス
の愛しておられた弟子」と自分で言うくらい、
イエス様に愛され、そしてイエス様を愛してい
たお弟子さんでした。この二人は、「よくわか
らない」と首をかしげながら家に帰って行きま
した。しかし、マリヤは墓から離れられなくて、
ずっと墓の外に立って泣いていたのでした。

いの
祈り

天のお父様、マリヤはだれよりもイエス様
を愛していたのだとよくわかりました。
私もそうあります。

4月14日(火)

聖書
聖句

ヨハネ 20・13

だれかが、わたしの主を取り去りま
した。そして、どこに置いたのか、わ
からないのです。 13節

涙でうるむマリヤの眼に映ったふたりの白
い衣を着た御使い。ひとりはイエス様の死体の
置かれていた頭の方に、ひとりは足の方にす
わっていて、マリヤに言いました、「女よ、な
ぜ泣いているのか」と。マリヤの心はイエス様
への熱い愛でいっぱいです。「だれかが、わた
しの主を取り去りました」と言うマリヤ。「イ
エス様は、わたしの主なのです。だれかが取り
去ってしまって、どこに置いたのかわからない
のです」と、泣く以外に何もできません。

いの
祈り

天のお父様、イエス様をマリヤは「わた
しの主」と言いました。私にとってもイ
エス様は「私の主」です。

4月15日（水）

聖書
聖句

ヨハネ 20・14～15

もしあなたが、あのかたを移したの
でしたら、どこへ置いたのか、どう
ぞ、おっしゃって下さい。わたしが
そのかたを引き取ります。 15節

御使いたちにマリヤが話していると、マリヤ
のうしろに復活のイエス様が立たれました。う
しろをふり向いたマリヤの眼は、まだ涙でく
もっていて、それがイエス様とは全然わかりま
せん。「女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜
しているのか」と、園の番人がたずねていると
思っ、「わたしがそのかたを引き取ります」
と言ったのです。そのマリヤの熱い愛の言葉を
聞かれたイエス様は、どんなにうれしかったで
しょう！

いの
祈り

天のお父様、マリヤがどんなにイエス様を
愛していたかよくわかります。私もそれ
ほどにも愛したいです。

4月16日（木）

聖書
聖句

ヨハネ 20・16

イエスは彼女に「マリヤよ」と言わ
れた。 16節

イエス様はマリヤの愛をひしひしと感じて、
心をこめて、愛をこめて、マリヤの名前を呼ば
れました、「マリヤよ」と。聞きなれた、なつか
しい、愛するイエス様に名前を呼ばれて、マリ
ヤはハッとふり返って、とびつきたいような思
いで、「ラボニ」（先生！）と言ったのです。よ
しみの涙は、一気に乾いてしまいました。よ
みがえられたイエス様は、今も生きておられ、
私たちの名前も呼んでくださるのです。悲
しみの涙もぬぐってくださいます。

いの
祈り

天のお父様、小さな私の小さな愛もイエ
ス様は喜んでくださり、名前を呼んでい
てくださり感謝します。

4月17日（金）

聖書
聖句

ヨハネ 20・17～18

マグダラのマリヤは弟子たちのと
ろに行つて、自分が主に会ったこと、
またイエスがこれこれのことを自分
に仰せになったことを、報告した。 18節

ほう・れん・そうー 「エ？ ボク、ほうれ
ん草きらいだよ」という子がいますか？ この
ほう・れん・そうとは、「報告」「連絡」「相談」
のことで、人と人との間の交わりでは、とて
も大切ですよという意味です。神様と人との
間もそうなのですね。マリヤは自分が主に
会ったことを、まず、報告しました。弟子たち
はオドロキだったでしょう。イエス様にお会
した話を、「あかし」と言います。とても感動
ですよ。

いの
祈り

天のお父様、私もイエス様にお会いした
人のあかしを聞いて、イエス様のことを
もっと知りたいです。

4月18日（土）

聖書
聖句

エレミヤ 29・10～14

あなたがたはわたしを尋ね求めて、
わたしに会う。 13節

マグダラのマリヤのことを考えると、きょう
の聖書のみ言葉を思い出します。マリヤは、愛す
るイエス様を尋ね求めました。本当に他のこと
は何もかも忘れて、「一心に」イエス様を尋ね求
めましたね！ そして、とうとう、よみがえられ
たイエス様に、他のだれよりも一番先にお会
いできたのです！ あなたもイエス様にお会
いたいですか？ どれくらい熱心に求めていま
すか？ 教会学校で一心にお話を聞き、お家
でも聖書を読んでお祈りをしてみてください。

いの
祈り

天のお父様、マリヤのように、私もイエ
ス様にお会いしたいので、ますます教会
学校に励んでいきます。



聖書
テーマ
暗唱聖句

創世記1・1～31

天地創造

はじめに神は天と地とを創造された。
創世記1・1

目標

天地創造の神を信じる。

4月19日（日）

聖書
聖句

創世記1・1～2

はじめに神は天と地とを創造された。
1節

聖書の、いちばんはじめの、み言葉。それは、はじめに神様が天と地をつくられた。この世界、宇宙は神様がつくられて始まったんだよ、ということ。これ、すごく大切なこと。宇宙も、ちゃんと始まりがあります。学校では神様のことはなんにも教えなくて、ぐうぜんが重なって宇宙ができた、って教えられたりします。でも、な～んにもないところに、ぐうせん宇宙ができるなんて、よく考えたらあるわけない。誰かがつくらなければ、ぜったいできないのです。

それは神様です。まず神様がおられて、この世界をつくられたのです。

いの
祈り

天のお父様、あなたが天と地をつくれ、世界をはじめられたことを信じます。

4月20日（月）

聖書
聖句

創世記1・3～5

神は光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられた。夕となり、また朝となった。第一日である。
5節

昨日の2節を読むと、世界は、やみだけでまっくらだったことがわかりますね。神様は、「光あれ」と言われました。すると、光ができて、神様の前にあらわれました！ 神様はその光を見て、よし、いいね！ と、とても満足されました。わたしたちのまわりには、あたりまえのように光があるけど…、光っていうものは、なかったんですね。

神様は光とやみを分けられました。光は昼。やみは夜、と名づけられました。夕が来て、朝になりました。世界ではじめの一日です！

いの
祈り

天のお父様、あなたが光をつくれ、わたしたちが生きるこの一日をつくられました。そのことを心から信じます。

4月21日（火）

聖書
聖句

創世記1・6～8

神はそのおおぞらを天と名づけられた。夕となり、また朝となった。第二日である。
8節

2節に「水のおもて」と書いてありましたね、わたしたちが住む地球は水でおおわれていたんですね。神様は、下の水と上の水をわけるために、おおぞらをつくられました。おおぞらの上にも、見えないけど水があったんですね。まんなかにも、おおぞらがあつて。下の水はこのあと海になるわけ。おもしろい！

神様は、おおぞらを天と名づけられました。これが第二日。わたしたちは神様を天のお父様と呼ぶけど、その天をつくられたのも神様。なんて偉大なお方なのでしょう。

いの
祈り

天のお父様、あなたは天におられるだけでなく、天をつくられたお方です。すばらしいあなたをほめたたえます。

4月22日（水）



創世記1・9～13

「地は青草と、種をもつ草と、種類にしたがって種のある実を結ぶ果樹とを地の上にはえさせよ」。 11節

さあ、第三日です。神様は「下の水」があるところに、かわいた地をつくられました。そして陸と名づけられました。水のほうを、ここで正式に海、と名づけられました。陸と海がここでわかれたんですね。

ここで神様は地に命じられました。いろいろな植物を生やさない、果物になるようにしない！ って。すると地は神様の命令にこたえて、たくさんの植物を生やしたのです。神様がつくられたすべてのものは、神様の命令とみこころに従うようにつくられているのです。

いの祈り 天のお父様、地があなたのご命令に従ったとはおどろきです。わたしもあなたのみこころに従っていきますように。

4月23日（木）



創世記1・14～19

大きい光に昼をつかさどらせ、小さい光に夜をつかさどらせ、また星を造られた。 16節

神様は、季節、日と年のしるしとなるように、二つの大きな光をつくられました。大きな光は、昼にかがやく太陽。小さな光は、夜にやさしく光る、月。月といっしょにかがやく、たくさんの星もつくられました。

太陽、月、星に神様があたえられた役わりは地を照らすこと。昼は太陽にまかせますよ、夜は月と星たちにまかせますよ、って。つかさどらせるって、そういうこと。神様は、つくられたものに役わりをあたえられるのです。これが第四日。

いの祈り 天のお父様、あなたが太陽、月と星をつくられたことを信じます。わたしもあたえられている役わりをはたせますように。

4月24日（金）



創世記1・20～23

「水は生き物の群れで満ち、鳥は地の上、天のおおぞらを飛べ」。 20節

神様はつくられた海の中に、水の中で生きるいろいろな生きものをつくられました。魚や貝とか、大きなクジラとか、たくさん。そして、おおぞらを飛ぶ、翼の生えた、いろ～んな鳥をつくられましたよ！

第五日に、神様は生きものをつくられたんですね。海は、水の中の生きものがすむ場所として、おおぞらは、鳥たちが飛ぶ場所として、さきにつくられてから、次に生きものをつくられたのです。神様はちゃんと順番を考えるお方。神様の考える順番にまちがいはないんです。わたしたちは、よくまちがえますけど。

いの祈り 天のお父様、あなたはちゃんと順番を考えて生きものをつくられました。あなたの考えをもっと信頼していきます。

4月25日（土）



創世記1・24～31

神が造ったすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった。 31節

第六日。神様は、地に住む生きものをつくられました。家畜や、地面をはいまわる生きもの、数えきれないほどの種類です。そして、そのさいごに、ついに人をつくられたのです！ これで、すべての生きものがそろいました。

このように神様は六日間で世界をつくられたのです。神様がつくられたすべての物を見られたとき、それはかんぺきな世界でした。神様は、すばらしい！ と大満足されました。美しい自然をみて、感動することがありませんか。それは神様がつくられたからです。神様がつくられたものは、すばらしい。あなたもね！

いの祈り 天のお父様、すばらしい天地をつくられたあなたを信じます。わたしをつくられたあなたを、心からほめたたえます！



聖書
テーマ
暗唱聖句

創世記1・26～31

人間の創造

神は自分のかたちに人を創造された。

創世記1・27

目標

神と共に歩むよう造られた者であることを知り、神との交わりに生きる。

4月26日(日)

聖書
聖句

創世記1・26

「われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り、…地のすべての獣と、地のすべての這うものとを治めさせよう」。

26節

先週は、天地をつくられた神様を学びましたね。神様がさいごにつくられたのは、人。「われわれのかたちに、われわれにかたどって」というのは、神様に似た者としてつくろう！ということです。人は神様の似姿なのです！

よく聞くでしょ、人はサルから進化したんだよ、って。ちがいます。神様に似た者として、神様がとくべつに形づくられた存在です。人は、ほかの生きものとはちがうのです。あなたも神様に似た者としてつくられたのですよ。

いの祈り

天のお父様、あなたが人をつくられました。わたしをあなたに似た者としてとくべつにつくってください、感謝します。

4月27日(月)

聖書
聖句

創世記1・27

神は自分のかたちに人を創造された。

27節

神様がご自分のかたちに人をつくられたなんて。これはとんでもなくすごいこと。でも、いったい自分のどこが神様のかたち？ どこが神様っぽいかなあ。

それは、見た目の姿ではなくて、見えない内がわの姿。人の心が、神様のかたちにつくられているのです。神様が、世界をつくろう！と考えてつくられたように、人もあれをつくろう、やってみよう、と行動したり。これは良い悪いと考えたり。人の内がわのことを数えたらきりがなし。人の心はなんて複雑で、深いのでしょうか。神様が、そのようなお方なのです。

いの祈り

天のお父様、わたしがいろんなことを考えたり行動するのは、あなたに似ているですね！ なんだかうれしくて感謝です！

4月28日(火)

聖書
聖句

創世記1・27

神は自分のかたちに人を創造された。

27節

昨日とおなじ御言葉から。神様のかたち、という御言葉には、さらにたいせつな意味があるんです。神様のかたちに人がつくられた、というのは、神様と交わりをもつように人がつくられた、ということなんです。

神様は、交わりをされるお方です。父、子、聖霊なる神様は、世界がはじまる前から交わりをされていました。その神様と似た者として、人間は神様といつもいっしょにいて、交わるようにつくられたのです。神様と共にあゆむこと。これが神様のかたち。人のほんとうの姿です。

いの祈り

天のお父様、神様のかたちにつくられた人として、いつもあなたと共にあゆんで、交わりを持つことができますように。

4月29日（水）

聖書
聖句

創世記1・27

すなわち、神のかたち^{かみ}に創造^{そうぞう}し、男^{おとこ}と女^{おんな}とに創造^{そうぞう}された。27節

神様^{かみさま}は、人^{ひと}を男性^{だんせい}、女性^{じょせい}につくられました。神様^{かみさま}は、はじめ男性^{だんせい}だけをつくられたのです。でも、それではかん^{かん}べきじゃないな、男性^{だんせい}ひとりでは良くないな、男性^{だんせい}を助ける人^{ひと}がどうしてもひつようだ、と考え^{かんが}えられたのです。そこで、神様^{かみさま}は女性^{じょせい}をつくられたのです。2章18節も読んでみてください。

男性^{だんせい}と女性^{じょせい}、どちらも神様^{かみさま}のかたち、どちらもいないとダメ。お互い^{たが}をそんけいして、力^{ちから}をあわせて助けあ^{たす}っていけたら、神様^{かみさま}がどんなに喜^{よろこ}ばれることでしょう。そのために、神様^{かみさま}は男性^{だんせい}と女性^{じょせい}をつくられたのですから。

いの祈り 天^{てん}のお父様^{とうさま}、男性^{だんせい}も女性^{じょせい}も、お互い^{たが}をそんけいして助けあ^{たす}う世界^{せかい}になるよう、みちびいてください。

4月30日（木）

聖書
聖句

創世記1・26～28

「生めよ、ふえよ、地^ちに満ちよ、地^ちを従^{したが}わせよ。また海^{うみ}の魚^{うお}と、空^{そら}の鳥^{とり}と、地^ちに動くすべての生き物^{もの}とを治めよ」。28節

人^{ひと}がつくられたとき、神様^{かみさま}から与^{あた}えられた大切な役わり^{やくわり}がありました。それは、鳥^{とり}も魚^{さかな}も地^ちで動くすべての生き物^{もの}、地^ちにつくられたすべてのものを、治^{おさ}めることでした。人^{ひと}が自分勝手^{じぶんかって}に治^{おさ}めていいわけではありません。地^ちのすべての物^{もの}が幸^{しあわ}せに生きられるように考^{かんが}えて、お世話^{せわ}をするのです。

今^{いま}の世界^{せかい}は、人^{ひと}のつごうで、地^ちの生き物^{もの}や自然^{しぜん}を苦しめていないでしょうか。神様^{かみさま}から与^{あた}えられた役わり^{やくわり}をしんけんに考^{かんが}えよう。

いの祈り 天^{てん}のお父様^{とうさま}、地^ちを治^{おさ}める役わり^{やくわり}は、わたしにもあります。わたしにできることをして、あなたに喜^{よろこ}んでいただけますように。

5月1日（金）

聖書
聖句

創世記1・29～30

これはあなたがたの食物^{しょくもつ}となるであらう。29節

神様^{かみさま}は、人^{ひと}の食^たべ物^{もの}もちゃんと考^{かんが}えてくださいました。地^ちに生^はえている、種^{たね}のできる植物^{しょくぶつ}、種^{たね}のある木^きの実^みをあたえてくださいました。ほかの生き物^{もの}にも、青草^{あおくさ}を食^たべなさい、とあたえてくださいました。さきに人^{ひと}や生き物^{もの}の食^たべ物^{もの}を、つくってくださいましたね。

わたしたちは、神様^{かみさま}がつくられ用意^{ようい}してくださった食^たべ物^{もの}で生^いかされているし、そのように神様^{かみさま}がきめられました。食事^{しょくじ}のとき、神様^{かみさま}に感謝^{かんしゃ}のお祈り^{いの}をして食^たべることは、とても大切なことです。神様^{かみさま}のかたちである、わたしたちがしなければならぬことです。

いの祈り 天^{てん}のお父様^{とうさま}、わたし^{わたし}の食^たべ物^{もの}をいつも用意^{ようい}してくださり感謝^{かんしゃ}します。うっかりお祈り^{いの}をわすれたりしませんように。

5月2日（土）

聖書
聖句

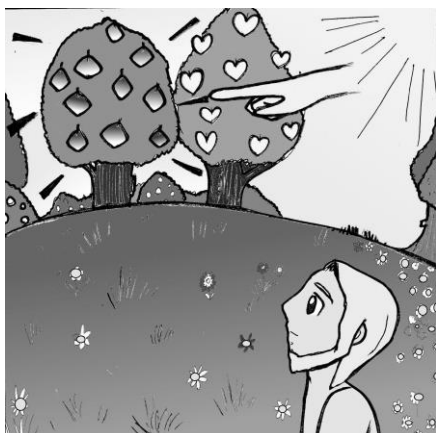
創世記1・31

神^{かみ}が造^{つく}ったすべての物^{もの}を見^みられたところ、それは、はなはだ良^よかった。31節

神様^{かみさま}は、つくられたものすべてを見^みられ、大満足^{だいまんぞく}されたのですが、人^{ひと}も神様^{かみさま}と同じように感動^{かんどう}する心^{こころ}をもっています。神様^{かみさま}のかたちですからね。きれいな星^{ほし}だな、おもしろい虫^{むし}だな、おいしい果物^{くだもの}だな…など、神様^{かみさま}のつくられたものを喜^{よろこ}ぶ人^{ひと}の姿^{すがた}。神様^{かみさま}はどんなにうれいでしょう。神様^{かみさま}は、人^{ひと}にもいっしょに喜^{よろこ}んでほしいのです。人^{ひと}は、神様^{かみさま}といつもいっしょにあゆむためにつくられたのですから。

すばらしい世界^{せかい}を神様^{かみさま}といっしょに喜^{よろこ}び、神様^{かみさま}を礼拝^{らいはい}しつづけましょうね！

いの祈り 天^{てん}のお父様^{とうさま}、あなたがた^{あなた}がつくられたものは本^{ほん}当^{とう}にすばらしいです！ すべてをつくられたあなたを、ずっと礼拝^{らいはい}していきます！



聖書
テーマ
暗唱聖句

創世記2・15～17、3・1～7

罪の始まり

善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう。

創世記2・17

目標

罪が不信仰から生まれることを知り、み言葉に信頼し、従う者となる。

5月3日（日）

聖書
聖句

創世記2・16～17

善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう。 17節

神様は、わたしたちをロボットのように、なんでも命令すればその通り動くものとして造りませんでした。だから自分で神様を愛し、神様の言われたことを「選ぶ力」があるんだね。

また、神様は「必ず悪い結果になる」ことについては、はじめからよくよく注意なさいます。それは神様が、わたしたちを心から愛してくれているから。そして、わたしたちがきっと、神様の喜ぶ生き方を選んでくれると信じてくれているからだね。あなたはどうかたえますか？

注意深く、良いほうを選べるといいね！

祈り

天のお父様、あなたが喜ばれる生き方を注意深く選んでいけますように。

5月4日（月）

聖書
聖句

創世記2・15

主なる神は人を連れて行ってエデンの園に置き、これを耕させ、これを守らせられた。 15節

生きている場所、お世話してくれる家族がいること、「わたし」という人間がうまれたこと、ぜんぶ当たり前だと思う？ いいえ。

神様は、この世界をつくる時、光も暗闇も、空気も、美しい水や、森の木やそこになる実、小さな生き物大きな生き物も造って、その用意が全部できてから、人間を、特別な場所において、また、おしごともくださったんだね。

みんなもそう。あなたがそこに生まれてもよい準備をし、あなたにしかできないことをくださって、生かしてくださってるよ！

祈り

天のお父様、すべてをととのえて、この地球に生まれさせてくださって感謝します！

5月5日（火）

聖書
聖句

創世記3・1～2

主なる神が造られた野の生き物のうちで、へびが最も狡猾であった。 1節

あるとき、エバの前にへびが現れたって。ただこのへび、ふつうのへびではなかったね。すべての生き物は、神様が造られた良いもののはずだったけど、中でもかしこいへびを利用したのが「悪魔」だったんだね。どうりで話しかけてくるわけだ。

悪魔はね、ときどき、そうやって姿を変えながら、人の前にあらわれては、やさしい声で、話しかけてくることあるんだ。あなたが神様からはなれるように、失敗するように。

祈り

天のお父様、悪魔を見分ける心をください。また悪魔の力からお守りください。

5月6日（水）

聖書
聖句

創世記3・3

園の中央にある木の実については、これを取って食べるな、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言われました。 3節

人間てほんとにふしぎ…。神様が「絶対ダメ」「必ず、きっと死ぬ」って言っても、「え～そうだったけ？」「わたしだけは大丈夫なんじゃない？」と思っちゃうんだもの。

あなたは、神様のおことばを、どれくらい真剣に、正確に、受け取ってますか？

やっぱり、エバといっしょくらいかも…。もっと本気になって、真剣に、神様がわたしに何を願っているか、言っているか、心から聞いていたがいませんか？

いのちの祈り 天のお父様、あなたがだめだと言われることをもっとしっかり受け止められますように。

5月7日（木）

聖書
聖句

創世記3・4～5

それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです。 5節

悪魔は、人をだまして神様から遠く遠くはなしてしまおう天才です。神様よりも、もっと魅力的だよと、いろんなものを目の前でチラチラさせたり、「神様がこう言っているよ」といながらうそをついて信じこませたり。

そうやってだれかが罪をおかすとき、神様に勝ったような気分になって喜んでいる、とても危険な存在です。

「悪魔にはしたがない！わたしは神様にしたがいいます」という、はっきりした気持ちがたいせつだね。

いのちの祈り 天のお父様、あなたから、ぜったいぜったいはなれません！

5月8日（金）

聖書
聖句

創世記3・6

その実を取って食べ、また共にいた夫にも与えたので、彼も食べた。 6節

やってはいけないことをしたとき、「あの人が悪い」「あれのせい」と言い訳をしない？エバも、自分がしたことが心の中ではいけなかったとわかっていたはず。それなのに、「神様ごめんなさい」と言うのではなく、となりにいたアダムにも同じことをさせてしまったのです。

悪いことを何人かでやれば、悪いことの重さは軽くなるのでしょうか？いいえ、ただ、悪いことが広がってしまった、それだけです。

罪をおかしてしまったそのときに、なるべく早く取り除かなければならないのです。

いのちの祈り 天のお父様、罪をだれかのせいにしたりせず、早くあなたに「ごめんなさい」と言えるわたしにしてください。

5月9日（土）

聖書
聖句

創世記3・7

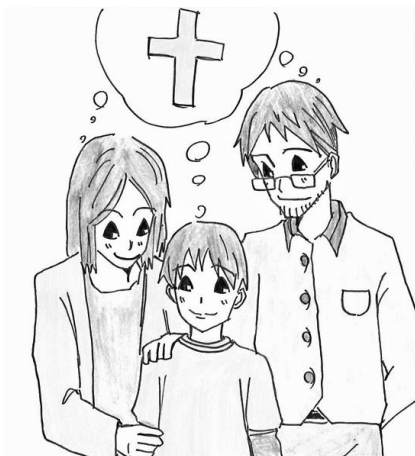
ふたりの目が開け、自分たちの裸であることがわかったので、いちじくの葉をつづり合わせて、腰に巻いた。 7節

神様はね、この世界も人も、ありのままですばらしい！と思って造ってくれたよね。でも、今のわたしたちはどうだろう？このアダムとエバみたいに「わたしを見ないで」「はずかしい」と自分をかくさないではいられないよね。神様がくれた、ほんとうの人間の姿を美しいものでなく、恥ずかしいものに変えてしまう…これが罪の怖いところなんだね。

神様に、どこを見られても「ありのままの自分」でいられるために、罪を解決しなきゃいけないんだね。イエス様が必要だね！

いのちの祈り 天のお父様、「すばらしいありのままの自分」になるために、イエス様がきてくれたことを感謝します

母の日



聖書
テーマ
暗唱聖句

エペソ 6・1~4

両親に従う
子たる者よ。主にあって両親に従いなさい。

エペソ 6・1
主にあって両親に従う者となる。

5月10日(日)

聖書
聖句

エペソ 6・1

子たる者よ。主にあって両親に従いなさい。 1節

毎年五月の二番目の日曜日は母の日だね！
1907年に、アンナさんというアメリカ人が、死んだお母さんの大好きだったカーネーションの花たばを教会に持って行ったのが、母の日の始まり！ お母さんが死んだあとも、お母さんを大切に思う気もちをわすれず、お母さんをよろこばせる方法をかんがえていたんだね。

あなたはどうか？ あなたを生んでくれたお母さんを大切にし、よろこばせようとしていますか？ あなたはお母さんが生んでくれた命だからね！ お母さんありがとう！

祈り
天のお父様、わたしを生んでくれたお母さんのことを大切にし、よろこばせる子どもでいさせてください。

5月11日(月)

聖書
聖句

エペソ 6・1

主にあって両親に従いなさい。これは正しいことである。 1節

むかしのユダヤ人たちはね、家族みんなで神様を信じていたし、神様のおしえを何よりも大切にしていたんだ。だから、お母さんが子どもに命をあげるのと同じくらい、みことばをあげることが大切だったんだ。家族みんなで神様を信じて信仰をバトンタッチしていけたら素晴らしいけれど、今の世界は神様を信じていない人もたくさんいるもんね。

もし、あなたが家族のだれよりもいちばんに神様を信じているのなら、あなたから、お父さんやお母さんに信仰をバトンタッチできるように祈りし、神様のおしえを守ろう！

祈り
天のお父様、まずはわたしからあなたのおしえにしがいます。

5月12日(火)

聖書
聖句

エペソ 6・1

主にあって両親に従いなさい。これは正しいことである。 1節

イエス様は、神様のひとり子。わたしたちの救い主なのに、お父さんやお母さん、それだけでなくすべての人を愛し、大切にし、とうとう罪人のわたしたちのために命をすてられたね。どうして？ なんでそこまで？ そう思うよね。

理由は一つ。そうすることが神様のおしえだから。イエス様はいつも、神様のご計画と意思を信じていたんだ。

イエス様が人を大切にされたのは、わたしたちもイエス様のお手本に従うためだね。

祈り
天のお父様、イエス様が地上のすべての人を愛し、大切に、仕えたお手本に、わたしも近づけますように。

5月13日（水）

聖書
聖句

エペソ 6・2

「あなたの父と母とを敬え」。 2節

このおしえはね、イエス様が生まれるずっとずっと前から神様が決めていたものなんだ。

人生ではじめて「従うこと」や「そんなけいすること」はおうちの中から始まるでしょう。そこで、あなたは、両親からたくさんのおしえをもらい、学び、大きくなるよね。

やがて、あなたが大人になって、仕事をするようになったときに、「従うこと」ができていた人は目上の人にすなおに従うことができ、「そんなけいすること」ができていた人は、人を大切にできる大人になっていることでしょう。

祈り

天のお父様、わたしのはじめての目上の人、お父さんとお母さんから従うこともそんなけいすることも学び、良い大人になれますように。

5月14日（木）

聖書
聖句

エペソ 6・3

そうすれば、あなたは幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう。 3節

神様はね、あなたがいつも幸せでいられるようにとねがっていてくださるんだよ。神様が「こうしなさい」というときは、ただ、あなたをあやつりにんぎょうみたいにしようとしているわけではないんだ。従ってみてはじめて「あ〜神様信じて生きててよかったなあ」と思えるように、神様はしてくださるんだよ。

そんな幸せな人生を、あなたも自分の子どもに伝えていく日がいつかくるよ。

祈り

天のお父様、いつもわたしの幸せをねがっていてくださり、ありがとうございます。わたしも、未来のかぞくに伝えていけますように。

5月15日（金）

聖書
聖句

エペソ 6・4

父たる者よ。子供をおこらせないで、主の薫陶と訓戒とによって、彼らを育てなさい。 4節

「え〜なんで子どもばかり〜！」なんて思っていたあなた、だいじょうぶ！神様は、子どもを育てる両親のせきにんはもっと大きいよ、と言われます。

もし、あなたの両親が神様を信じているなら、イエス様が愛してくれたようにあなたを愛し、また、イエス様のお手本のようにあなたのお手本となり、じょうずにあなたを育てなさい！ そう言われているんだよ。

祈り

天のお父様、両親がわたしよりももっとたくさんの責任をおってわたしを育ててくれることを感謝します。

5月16日（土）

聖書
聖句

エペソ 6・1

主にあつて両親に従いなさい。 1節

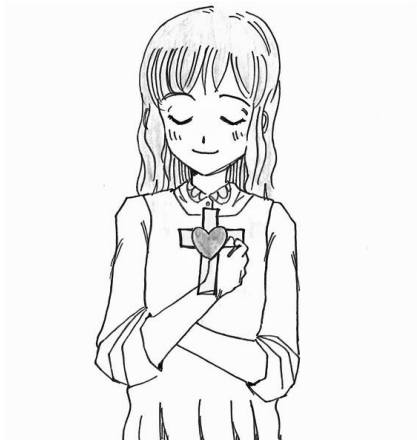
一週間、お父さんとお母さんに「従う」ことをかंगाえてきたけれど、どうでしたか？

とても悲しいことに、今は、子どもを育てないでほったらかしにする親、子どもをいじめる親、子どもをすてる親もたくさんいる時代です。

そんな親にどうやって従ったら？ っていう子もいるね。でもね、その子が今こうして生きているのは、やっぱりお母さんが苦しみながら生んでくれたからだし、生まれたからには、意味があるんだ、神様からの意味がね。もらった命、意味ある命に感謝しよう！

祈り

天のお父様、意味がある自分の命をくれた、あなたと両親に感謝をささげます。



聖書
テーマ
暗唱聖句

創世記 3・6～19

罪の結果

罪の支払う報酬は死である。

ローマ 6・23

目標

罪の結果の恐ろしさを知り、罪を悔い改める者となる。

5月17日（日）

聖書
聖句

ローマ 6・23

罪の支払う報酬は死である。 23節

人間だから、病気や事故や、年を取ったら、いつかは必ず死ぬよね。でもそれは、ただ体が死ぬというだけのことで、聖書が言う「罪による死」は、もっと深い意味があるんだ。

体が死ぬとお葬式をして骨になってお墓に行くけど、そうなっても神様の前にいく「自分」はいるんだ。そして、その自分は生きている間、イエス様と出会って、神様に罪を赦してもらったかどうか、永遠に生きる命をもらったかどうか、調べられるんだ。もしそうでなければ「永遠に死ぬ」ということが起きるんだって。

あなたは、いつ、自分の命が終わってもいいようにじゅんびできていますか？

いの
祈り

天のお父様、いつか死んでも、天国に行けるように、イエス様を信じます。

5月18日（月）

聖書
聖句

創世記 3・8～10

あなたはどこにいるのか。 9節

「罪」という感覚、持っていますか？ 今は毎日地球のどこかで、平気で盗んだり、いのちをたいせつにできなかったり、殺したり、そんなことが山ほど起きているよね。

でもきっと、アダムとエバがそうだったように、そういう人は胸をはって、堂々と生きてはいけないだろうね。罪というのは、どんなに小さくても、「神様から逃げたい」「隠れたい」と思わせてしまうものなのです。

神様は、そんな人に向かって今も「あなたはどこにいるの」と声をかけ続けておられるだろうね。やっぱり、罪はないほうがいいね。

いの
祈り

天のお父様、あなたの前でも、人の前でも胸をはって生きていける「罪のゆるし」を体験させてください。

5月19日（火）

聖書
聖句

創世記 3・11～13

あなたは、なんということをしたのです。 13節

「ちがうもん」「あいつが悪いもん」きっとあなたも言っちゃう言葉じゃない？ アダムとエバも、神様の前では隠せることはひとつもないのに、だれかのせいにしてばかり。

「だってしょうがないじゃないか。悪く思われたくないもん」ではなく、「それは罪だよ」と言われたとき、すなおに「ごめんなさい」とおわびできるあなたになってください。

だれも見えていなかったとしても、神様はいつもあなたを見ておられることを忘れないでね。

いの
祈り

天のお父様、いつも見ておられるあなたの前に、すなおな心で生きていけるわたしにしてください。

5月20日（水）

聖書
聖句

創世記3・14～15

彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう。15節

人に罪をおかせ、神様に勝った気持ちになった悪魔に、神様のきびしいお言葉。これから先、人と悪魔が戦うことになるけれど、やがて、イエス様が悪魔の頭をふみつぶす日が来る。悪魔はその、かかとかみつことしかできないんだから、完全に負けたってこと！

人は、世界の初めから神様をうらぎっておいでごめんなさいも言えなかったのに、神様のほうは、人のために、悪魔に勝つ「救いの道」を約束してくれただ。

その神様に、あなたはどうかたえますか？

いの
祈り

天のお父様、世界のはじめから、失敗ばかりのわたしたちに、イエス様を与えと約束してくださり、ありがとうございます。

5月21日（木）

聖書
聖句

創世記3・16

あなたは苦しんで子を産む。それでもなお、あなたは夫を慕い、彼はあなたを治めるであろう。16節

あなたは悪いことをしたとき、その責任をとっていますか？ 神様も、エバ（女）のしたことを全部悪魔のせいにはしていません。

エバが神様との約束をやぶったので、女に生まれた者は、赤ちゃんを苦しんで生むこと、平等な立場だったはずの男に支配されるようになってしまうと、神様は言いました。

だから、女は男より弱く、なんだか不公平だよ、という世界に変わってしまったんだね。それも罪の結果起きた悲しい出来事です。

いの
祈り

天のお父様、罪ということがいろんな結果になってしまうことを知りました。罪の責任についてもっと考えます。

5月22日（金）

聖書
聖句

創世記3・17～18

地はあなたのためにのろわれ、あなたは一生、苦しんで地から食物を取る。17節

エバがしたことを止めず、いっしょに神様の約束をやぶったアダム（男）も罰を受けました。

男は、この地球を管理する力と働くという祝福をもらったはずなのに、その「働く」ということがしんどく、苦しいものになる、と神様は言われました。それだけではありません。

人間が、この世界で神様よりも悪魔に従ってしまったために、生きている場所、地球が呪われてしまったのです。

この地球がこんなにも生きづらい場所になったのは、そのためだったんだね。

いの
祈り

天のお父様、罪の結果から、人も地球も救いだしてください。

5月23日（土）

聖書
聖句

創世記3・19

あなたは顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る。19節

この呪われた地球と体で、永遠に生き続けなければならないとしたら、それほどつらい悲しいことはないんじゃないかな？

だから神様も、罪だらけの世界で人が永遠に生き続けることがないように、人生の終わりをくださったんだね。

そして、今度は罪のない世界で、永遠に生きるために、この人生でイエス様と出会う、罪から救うチャンスをくれているんだ。

ただ苦労だけして死ぬ人生でなく、新しい永遠の希望を、いま受け取ろうよ！

いの
祈り

天のお父様、生きている間に、イエス様を信じて、永遠の命の希望いっぱいにしてください。



聖書
テーマ
暗唱聖句

創世記 3・14～24

救いの約束

主なる神は人とその妻とのために皮の着物を造って、彼らに着せられた。

創世記3・21

目標

キリストによる救いを知り、救いを得る者となる。

5月24日（日）

聖書
聖句

創世記3・14～24

主なる神は人とその妻とのために皮の着物を造って、彼らに着せられた。

21節

皮の洋服持っていますか？ とても暖かくて、身体が守られますよね。何とここにはもうこの時に、人と妻とが皮の服を着ていたことがわかります。それは、神様が彼らのために造られたものでした。皮は、動物の皮です。何の動物だったのでしょうか？ 羊かな？ 山羊かな？ その動物は殺されて、血が流されたのです。このことは、罪がゆるされ、裸の恥をおおうためには、血が流されなければならないことを示しています。これは十字架の主を示しているのです。

いのちの祈り

天のお父様、人と妻に皮の着物を造って着せたあなたが、天よりひとり子キリストを救い主として送ってくださり感謝です。

5月25日（月）

聖書
聖句

創世記3・14～15

彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう。15節

人が罪を犯した、その時！ 神様はもうそこで、救い主のことを預言されたのでした！ それがこの15節です。救い主は、女の子孫から生れるのです。罪を犯し、夫にも罪を犯させた、その女の子孫からです。神様のご計画のすばらしさ！ 彼とは、メシヤ、救い主です。つまりイエス様は、おまえ、へび、つまり悪魔のかしら、頭を砕きます。決定的に打ちのめすのです。悪魔はイエス様のかかとを砕く。すなわち、十字架にかかれるということです。

いのちの祈り

天のお父様、人が罪を犯したら、すぐにこの救い主をお約束して下さり、そのとおりにして下さり感謝します。

5月26日（火）

聖書
聖句

ローマ3・9～18

義人はいない、ひとりもない。

10節

「ぼくが正しくて、君がまちがっているよ」、「わたしの方が正しいのよ、あなたが悪いわよ」と、だれもが口をとがらせて言いませんか？ ところが、聖書には何と書いてありますか？ 「義人はいない、ひとりもない」ですって。あなたも君も私も僕もみんな悪い、罪人！ 博士も秀才も美人もお金持ちもみんな罪人。義人、正しい人はひとりもないのです。最初の人と妻から生れた子も、またその子も、またその子のその子も全員残らず罪人です。

いのちの祈り

天のお父様、はじめの人が犯した罪は、その時以来、子々孫々に引き継がれてきている事を認めるしかありません。

5月27日（水）



民数記21・4～6

へびは民をかんだので、イスラエルの民のうち、多くのものが死んだ。
6節

「エーッ、一体いったいそれではどこに救いがあるの?!」って叫んでしまいますよね。では、その救いをいっしょに求めましょう。きょうの場面は、リーダーのモーセのもとにイスラエルの民が荒野を進んでいる時のことです。民はしんどくなって、神様とモーセにつぶやいて文句を言ったのです、「われわれをこの荒野で死なせる気か?!」と。神様は火のへびを送ったので、へびにかまれて多くの民がバタバタ死にました。罪人というのはまさにこういう人々です。

いの祈り 天のお父様、生まれつきの人は皆、あなたにそむきつぶやき、罪の毒の中で何一つ良いことができない死人のようです。

5月28日（木）



民数記21・7～9

すべてへびにかまれた者はその青銅のへびを仰いで見て生きた。 9節

「ああ、モーセさん、ごめんなさい。私たちが主にも、あなたにも罪を犯しました。どうぞへびを取り去ってもらえるように主に祈ってください」と、民は必死でした。モーセがお祈りをすると、神様は言われました、「火のへびを造って、さおの上うへにかけなさい。へびにかまれた人がそれを仰いで見るなら生きる」と。モーセは青銅で一つのへびを造り、それを高くさおの上うへにかけました。その青銅のへびを仰いだ人は、なんと、生きた（!）のでした。

いの祈り 天のお父様、へびにかまれた人々の救いは、ただあなたがモーセに造らせたへびを仰ぐことだけだったことがわかりました。

5月29日（金）



ヨハネ 3・14～15

ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない。 14節

「さおの上うへのへび!」へびにかまれて毒がまわり、死にかけていた人々が仰いで見て、生きた!「さおの上うへのへび!」イエス様は、ちょうどこのへびのように上げられねばならないと、イエス様が言われます。そうです、イエス様はやがてかけられる十字架のことをおっしゃったのです。「それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」(16)とあります。イエス様が十字架ですべての罪のろいを受けてくださったので、仰いで信じると救われます。

いの祈り 天のお父様、イエス様が私のために十字架にかかってくださったこと、私の罪をゆるし、永遠の命をくださることを信じ感謝します。

5月30日（土）



ヨハネ 3・16

神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。 16節

あの最初の人と妻が木の実を食べて罪を犯したとたんに、救い主の預言がなされたのでしたね。一体、何年後のこと? いえ、何千年後ですよ! 約束のとおりようそくに、神様は、尊いたったひとりの、かけがえのないお方、イエス・キリストを天よりお贈りくださったのでした! それは格別の、超スペシャルな愛でした。そして、この御子を信じるならばひとりも滅びないばかりか、永遠の命が与えられるのです! たった一つの救いの道です。

いの祈り 天のお父様、私の罪の代わりに十字架に死んでくださった救い主を心より信じて仰ぎます。救いを感謝します。

ペンテコステ



聖書
テーマ
暗唱聖句

使徒行伝2・1～11

ペンテコステの恵み

一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した。

使徒行伝2・4

目標

聖霊に満たされ、造り変えられて生きる。

5月31日（日）

聖書
聖句

使徒行伝2・1～17

わたしの霊をすべての人に注ごう。
17節

ペンテコステおめでとうございます。今日はイエス様が復活して50日目、お約束の聖霊が天から注がれた日を記念します。ちょっとおもしろいこの記念日の名前は、ギリシャ語の50をあらわす言葉からつけられました。聖霊降臨日、そして教会誕生記念日です。昔は、特別な人々、つまり、王様とか祭司とか預言者たちにだけ油注ぎといって、聖霊が注がれましたが、イエス様が来られた終りの時、今はすべての人に注がれます。小さいあなたにだって、ですよ。

祈り

天のお父様、私の上にもお約束の聖霊が注がれることを知りました。ありがとうございます。祈り求めていきます。

6月1日（月）

聖書
聖句

使徒行伝2・1～4

すると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した。 4節

「まだかな?」、「きょうもまだなのかな?」、弟子たちは、一日、二日、三日、四日、五日、六日、七日、八日、九日…、祈りに祈って、「本当かな?」ともチラッと思ったかもしれません。でも、待ち続けました。本当ですとも! 神様は約束をきちんと守られました。五旬節の日、復活から50日目! 祈り出して十日目! 突然、天からの聖霊が降りました! 風のような音、舌のようなものが炎のように分れて一人ひとりの上にとどまり、みんな聖霊に満たされました。

祈り

天のお父様、あなたのお約束には絶対にまちがいがありませんでした。私も信じて祈って待ち望みます。

6月2日（火）

聖書
聖句

使徒行伝2・5～13

あの人々がわたしたちの国語で、神の大きな働きを述べるのを聞くと、は、どうしたことが。 11節

祈りに祈った弟子たちの心の中の汚れや醜いものは、炎のような聖霊の火によって焼き尽くされました。そして聖霊によってイエス様がなされた、大きな愛による救いのみわざを話し始めたのでした。そこにいた色々な国々、民族の人々がわかる彼らの言葉でね。アパルムで祈った人々は120名ばかりの人々でしたが、その人たち、一人ひとりの上に聖霊が注がれました。そこにいたまわりの人々は、本当にびっくり仰天! だったのがよくわかりますね。

祈り

天のお父様、聖霊なる神様が心に満ちてくださると、心の汚れがきよめられ、あかしの舌が与えられると知りました。

6月3日（水）



ヨエル 2・28～32

その後わたしはわが霊をすべての肉なる者に注ぐ。 28節

「あの人たちは新しい酒に酔っているんだ」とあざけり笑う人々もありました。そこでペテロが聖霊に満たされて立ち上がりました。「いや、ヨエルの預言のとおりのおこったのだ」と。ヨエル書を調べましょう。ペテロの言ったとおりですね。「すべての肉なる者（人）に注ぐ」とあります。むすこ、娘は預言をする、老人たちは夢を見る。素敵な輝く老人になれる！ 若者たちは幻を見る！ 生き生きと、未来に向かって神と共に生きる若者たちに！

いの祈り 天のお父様、あなたの約束の聖霊が注がれる時、どの年代の人でも本当に輝いて生きられることを感謝します。

6月4日（木）



ルカ 11・1～13

天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さらないことがあろうか。 13節

「イエス様、私たちにもお祈りを教えてください」と、弟子たちはイエス様の祈るお姿を見て言いました。するとイエス様は、「主の祈り」を教えてくださいました。あなたはもう「主の祈り」を覚えましたか？ ゆっくりお祈りしましょう。そして「一生懸命求めるなら与えられます」と教えてくださいました。人間の父でも、子どもが求めるそのものを与えるのです。だから、天の父は一番よい贈り物である聖霊を、求めて来る者にきっと与えてくださいます。

いの祈り 天のお父様、どう祈ってよいかわからない時、「主の祈り」をします。そして、聖霊を求めてお祈りします。

6月5日（金）



ガラテヤ 2・19～21

生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。 20節

聖霊のバプテスマは、水のバプテスマ（洗礼）を受けた人が、その次に与えられるものです。「きよめの恵み」とも言われます。洗礼をまだ受けていないお友だちも、聖霊のバプテスマがどんなものなのか知っておくことはとてもよいことです。古い私は、心の中にガラテヤ 5・19～21節のような醜いものをもっています。今日の言葉によって、そんな私は、イエス様と共に十字架につけられて死んだのだと信じます。もう私ではなくイエス様が私のうちに生きておられると信じます。

いの祈り 天のお父様、自分の心や人の心を傷つける「古い私（自我）」を十字架につけて、イエス様に生きていただきます。

6月6日（土）



ガラテヤ 5・16～26

御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。 22～23節

私たちの心に、聖霊によってイエス様を王様としてお迎えすると、素晴らしい実がどんどん結ばれて、心の中からあふれ出てきます。だってイエス様ご自身がこのようなご性質のお方だからです。実はイエス様以外には、この世界この宇宙に、こんなうるわしい実を結ぶことができる人はだれ一人いません。イエス様は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制そのもののお方です。イエス様、私の心をあなたで満たしてくださいと叫びたいです！

いの祈り 天のお父様、この世の中であって、こんなうるわしい実を結べる人生を与えてくださる恵みを感謝いたします。



聖書
テーマ
暗唱聖句

マタイ 5・1～12

さいわいな人

こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。 マタイ 5・3

目標

真に幸いな生涯の秘訣を知る。

6月7日（日）

聖書
聖句

マタイ 5・3

こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。 3節

イエス様は、ご自分を信じる人たちのしあわせを心からねがって、たくさんのおしえてくれたよ。どんな人がしあわせなんだろう？

神様をしない人たちのしあわせは、自分が成功したり、だれかに「すごいね！」って思われることみたい。でも、そういうしあわせは、死んでしまえばおしまいだし、それを神様がくれたものだと知らないんだ。ざんねんだね…。

すべてのものは神様がくれること、どんなときも神様がたすけてくれることを知っている心の人が、しあわせな人だよ。だってそのしあわせは天国につづいているもんね！

祈り

天のお父様、天国につづくしあわせを持って生きていけますように。

6月8日（月）

聖書
聖句

マタイ 5・4～5

悲しんでいる人たちは、さいわいである、彼らは慰められるであろう。 4節

悲しんでるのにしあわせ？ イエス様のおしえはときどきあべこべに聞こえちゃうかな？

この悲しみはね、心の中にある罪のこと。今まで神様にさからって自分かってに生きてきたことがわかる時「神様、ごめんなさい」と、罪をおわびする心に変えられていくよね。

神様にしか赦すことのできないこの罪を、悲しんでおわびできる心の人は、赦され、よろこばれ、天国ゆきの新しい命をもらって歩きだせるよ！ このしあわせはどこにもないね。

祈り

天のお父様、どんな小さな罪も、そのままにしておかないで、あなたにおわびできる子どもにしてください。

6月9日（火）

聖書
聖句

マタイ 5・6

義に飢えかわいている人たちは、さいわいである、彼らは飽き足りるようになるであろう。 6節

わたしたちが「あれほしい！ これも！」って思うのは、おなかですいたときや、自分が持っていないものをだれかが持っていたときかな？ でもね、今おはなししているのはそんなものじゃなく、神様の正しさを言ってるんだ。

「神様に赦されて神様の子どもでいたい！ 神様によろこばれたい！」と心から思い、しんけん（しんけん）に神様に聞き従うとき、あなたの心や生き方が、イエス様のような、神様によろこばれる人に変えられていくよ！ やった～！！

祈り

天のお父様、心や生き方が変えられて、イエス様のようにあなたによろこばれる人になってください。

6月10日（水）



マタイ 5・7

あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう。 7節

あなたの心^{こころ}が、どんな大きな罪^{おおつみ}を持っていたとしても、神様^{かみさま}は赦^{ゆる}してくださるお方です。だって、あなたを愛し、永遠^{えいえん}に滅^{ほろ}びなくてもいいようにと、あなたの罪^{つみ}の代わりに、ひとり子^{ひとりご}イエス様^{イエスさま}を十字架^{じゅうじか}につけてくださったでしょう。神様^{かみさま}のあわれみはこんなに大きいんだ！だから、心^{こころ}からそのことがわかったなら、「自分が神様^{かみさま}に赦^{ゆる}されたように、自分もだれかを赦^{ゆる}す」人^{ひと}になろうね。祝福^{しゅくふく}があふれるよ！

いの

祈^{いの}り 天^{てん}のお父様^{とうさま}、イエス様^{イエスさま}を身代わり^{みが}にするほど、わたしを愛し、あわれんでくださり感謝^{かんしゃ}します。わたしも、人^{ひと}を愛し、ゆるせる人^{ひと}にしてください。

6月11日（木）



マタイ 5・8

心の清^{きよ}い人たちは、さいわいである、彼らは神^{かみ}を見るであろう。 8節

人間^{にんげん}が見ることができるのは、人^{ひと}のすがたややっていることだけ。でも、神様^{かみさま}は、そんなことであなたが良いか悪いかを決めないで、いつもあなたの心^{こころ}の中^{なか}を見ているんだ。

でも、人間^{にんげん}のどりよくでは、心^{こころ}の中^{なか}の罪^{つみ}はきれいになることはありません。

心^{こころ}の中^{なか}に、あなたの罪^{つみ}の身代わり^{みが}に十字架^{じゅうじか}にかかってくださったイエス様^{イエスさま}がいるとき、神様^{かみさま}はあなたを「心の清^{きよ}い人^{ひと}」と言われるんだ。イエス様^{イエスさま}が心^{こころ}の中^{なか}にいるしあわせ！

いの

祈^{いの}り 天^{てん}のお父様^{とうさま}、わたしも自分の罪^{じぶんのつみ}を自分でなくせません。でも、この罪^{つみ}のために十字架^{じゅうじか}についたイエス様^{イエスさま}が、今日^{きょう}も心^{こころ}の中^{なか}にいてくれるからしあわせです。

6月12日（金）



マタイ 5・9

平和^{へいわ}をつくり出す人たちは、さいわいである、彼らは神^{かみ}の子^こと呼ばれるであろう。 9節

イエス様^{イエスさま}がわたしたちに愛^{あい}やゆるしをくれたから、わたしたちの心^{こころ}の中^{なか}はとても平和^{へいわ}です。でも、あなたのまわりを見てみて。罪^{つみ}をかかえて苦しんでいる人^{ひと}、悲^{かな}しんでいる人^{ひと}、きずつけ合^あっている人^{ひと}はいませんか？

ただ「かわいそう」と思うだけではなく、出^でて行って、イエス様^{イエスさま}がくれた、愛^{あい}や、なぐさめや、はげましや、希望^{きぼう}をとどけてみませんか？

わたしたちは平和^{へいわ}をつくる人^{ひと}にされた、神^{かみ}の子^こだもんね！

いの

祈^{いの}り 天^{てん}のお父様^{とうさま}、わたしも、イエス様^{イエスさま}がくれたたくさんのもの^{もの}をとどける、平和^{へいわ}をつくる人^{ひと}にしてください。

6月13日（土）



マタイ 5・10~12

義^ぎのために迫害^{はくがい}されてきた人^{ひと}たちは、さいわいである、天国^{てんごく}は彼^{かれ}らのものである。 10節

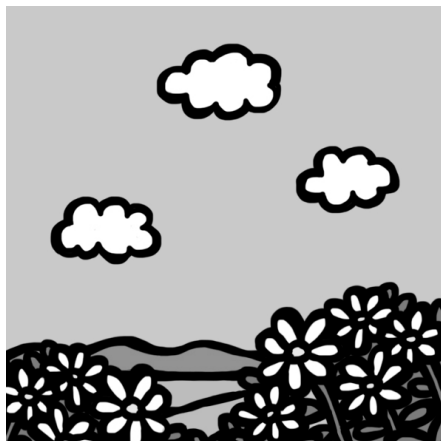
神様^{かみさま}を信^{しん}じる人^{ひと}とそうでない人^{ひと}の生き方^{いかた}やかんがえ方はぜんぜんちがうね。そして、神様^{かみさま}に従^{したが}って生きるとき、まわりの人^{ひと}から苦^{くる}しめられることがたくさんあるんだ。

でも、悲^{かな}しんじやいけないし、神様^{かみさま}を信^{しん}じることをやめちゃいけない！だって、神様^{かみさま}を信^{しん}じて生きぬいた人^{ひと}には「天国^{てんごく}」というゴールがあるんだもの。罪^{つみ}や、永遠^{えいえん}の滅^{ほろ}びにむかう生き方^{いかた}からはなれて、さいこうのしあわせがある天国^{てんごく}めざして生きていこうね！

いの

祈^{いの}り 天^{てん}のお父様^{とうさま}、わたしも、どんなことがあってもあなたを信^{しん}じて生きて天国^{てんごく}に行^いけることほどしあわせなことはありません！

はな ひ こ 子どもの日



聖書
テーマ
暗唱聖句

マタイ 6・25～34

思い煩いからの解放
野の花がどうして育っているか、
考えて見るがよい。

目標

必要を備えてくださる神を信頼
し、心配しないで生きる。

6月14日(日)

聖書
聖句

マタイ 6・25～34

野の花がどうして育っているか、考
えて見るがよい。 28節

きょうは一年の内でもとても美しい「花の
日・子どもの日」の礼拝です。1856年、ア
メリカで始まりました。色とりどりのお花、形
もさまざま、香りもまた不思議ですばらしい、
数えられないほどの種類のお花、胸がいっぱい
になりますね。まるで天の花園です！一つひと
つのお花は輝いています。天の父なる神様の
最高のデザインです。このように野の花を美し
く咲かせてくださる神様はモチロン、あなたに
は、それ以上のことをしていただきます。

祈り 天のお父様、もう、何を着ようかと自分の
からだのことや洋服のことで思い煩っ
たりは決してしません。

6月15日(月)

聖書
聖句

マタイ 6・25

命は食物にまさり、からだは着物
にまさるではないか。 25節

「ああ、心配だなア。何を食べればいいのか
なア。何を飲んだらいいのかなア」って、命の
ことで、アレコレ、心配することを、「思いわ
ずらい」と言うのです。子どもはあまりそんな
ことはないかもしれませんね。え？ たまにあ
りますか？ お母さんだったら、毎日毎日、あ
なたや家族の人に食べさせたり、飲ませたりす
るから、「思いわずらい病」にかかるかも！
お母さんと一緒に読んで祈りましょう。食物
より大切な命を守り養ってくださるのは
神様です。

祈り 天のお父様、命を与え、養ってくだ
さるのはあなたですから、何も心配しな
いで、感謝してすごします。

6月16日(火)

聖書
聖句

マタイ 6・25～26

空の鳥を見るがよい。まくことも、刈
ることもせず、倉に取りいれることも
しない。 26節

「チチチッ！」と鳴きながら飛んでいる空の
鳥を指さしてイエス様が言われました、「ごら
んなさい、あの空の鳥を」ってね。空の鳥がせつ
せと種まきしているのを見たことがあります
か？ 鳥たちがかまを持って、刈り入れをしてい
るのを見たことがありますか？ ノー！ ですよ
ね。それじゃ、鳥たちは一体どうやって生きて
いるの？ それは、天の父が彼らを養っている
からです。あの木の実、この木の実と食べます。
何の心配もしないで鳥たちは生きています。

祈り 天のお父様、空の鳥を養ってくだ
さるあなたが私たちにも必要な食物
はじめ、すべてを備えてくださり感謝し
ます。

6月17日（水）



マタイ 6・25～27

あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわすかでも延ばすことができようか。

27節

「寿命」って!? この地上で生きる命の年の数です。つまり何歳まで生きるか、何年この地上に生きるかということです。これだけは誰にもわかりません。若くして死ぬのか? 百歳を超えるほどまでも生きるのか? 本当に誰一人わかる人はいないのです。ましてや、何とか心配したり、思いわずらったからといって、その寿命をわすかでも延ばすことも決してできないのです。それはもう、神様のご計画の中にちゃーんとあって、人はどうすることもできません。

いの

祈り 天のお父様、本当に「命」「地上の寿命」はただ、あなたのご計画です。あなたにのみ信頼して生きていきます。

6月18日（木）



マタイ 6・28～30

栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。

29節

ソロモン王様のまばゆいばかりの神殿! 香り高い材木に、金ですべてがおおわれた燭台とか机とか…! 南の国シバの女王があまりの華やかさ、ぜいたくさにびっくり仰天してしまったほどでした。ところがイエス様が言われるのに、その栄華をきわめたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかったと! きらびやかなソロモンの衣よりももっとはるかに美しいのがこの野の花なのです。それはきっと、神の輝く命の美しさの源なのです。

いの

祈り 天のお父様、野の花をさえ、このように美しく咲かせてくださるあなたが、私たちにもそれ以上よくしてくださると信じます。

6月19日（金）



マタイ 6・31～33

まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

33節

おまけつきのグリコのキャラメル! 今もありますか? おまけつきの小学館の本とか。おまけは、別にそれを買おうと思ってお金を出すものではありませんね。キャラメルを買うと、ついてくるものです。イエス様は、何を食べてうかとか、着ようかとか、そういうことはおまけですよと言われます。何のおまけ? 神の国と神の義を第一にする人のためには必ず与えられるおまけです。神様をいつでも第一にしていると、本当に驚くほど満たされます!

いの

祈り 天のお父様、日曜日には教会であなたを礼拝し、毎日み言葉を讀んで祈るなら、すべてが与えられると信じます。

6月20日（土）



マタイ 6・31～34

一日の苦勞は、その日一日だけで十分である。

34節

だから、あすのことをいろいろ、くよくよ、心配しなくてもいいですよイエス様は言われます。朝、目が覚めて、「神様、きょう一日、共にいてお守りください」と祈りましょう。この前の日曜日の教会学校のみ言葉を言いましょう。そして、きょうの時間割、きょうも持つていく物、きょう出す宿題を忘れずに! 学校が終わると、きょうやるべき宿題をして、きょう一日の感謝のお祈りをして、もう一度み言葉を言って、明日の教会学校を楽しみに寝ましょう。

いの

祈り 天のお父様、あすのことを心配しないで、あなたにおまかせし、きょう一日を精一杯生きていけますように。

ちち ひ
父の日



聖書
テーマ
暗唱聖句

マタイ 5・43～48

天の父の愛

天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らせて下さるからである。

マタイ 5・45

目標

天の父なる神の愛を知り、どんな人をも愛する者となる。

6月21日(日)

聖書
聖句

マタイ 5・43～45

天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らせて下さるからである。 45節

「お父さん、ありがとう！」と、父の愛に感謝する日は、毎年6月第3日曜日なのですが、今週は大きな広い豊かな天の父の愛を聖書から学び、私たちもそんな愛で互いに愛し合える神の子どもにされましょ。天の父は悪い者の上にも良い者の上にも同じように太陽をのぼらせ、雨を降らせてくださいます。そんな天の父に、どれだけの人が気づいているのかしらと思ってしまいませんか？

祈り 天のお父様、あなたの愛はあまりにも広すぎます！ あなたのこの愛にしっかり目が開かれ、伝えていきたいです。

6月22日(月)

聖書
聖句

マタイ 5・38～39

もし、だれかがあなたの右の頬を打つなら、ほかの頬をも向けてやりなさい。 39節

天の父の広い愛に目が開かれていって、この子どもと生まれ変わってはじめて、イエス様が教えてくださることが実行できるのですね。もしかして、お友達から右のほっぺたをパチンとぶたれたら、あなたも相手のほっぺたをパチンパチンとぶってしまいませんか？「天の父の子どもはそうはしないのだよ」と、イエス様は言われます。右の頬を打たれたら、左の頬も、「どうぞ」って出すのですって！こちらは気持ちいいし、相手は「気持ち悪」って？！

祈り 天のお父様、そうしてこそ、本当の勝利なのだ、あなたの愛による勝利なのだとなります。実行したいです。

6月23日(火)

聖書
聖句

マタイ 5・40

あなたを訴えて、下着を取ろうとする者には、上着をも与えなさい。 40節

ユダヤの人たちにとって、昔、モーセの時代のころから、上着はとても大切なもので、たとえ、質に入れたとしても、夕方には返してあげなければなりません、神様の律法にさえ記されていたのです（出エジプト 22・26）。なぜなら、その上着を着て寝るからでした。寒い夜の毛布がわりだったのです。でも裁判で訴えてきた人が、下着を取ろうとするなら、下着はもちろん上着も与えなさいとイエス様は言われます。天の父の愛は徹底してますね！

祈り 天のお父様、昔の律法さえも超えてしまうあなたの愛に圧倒されます。そのようにしてあなたの愛を示します。

6月24日（水）



マタイ 5・41

もし、だれかが、あなたをしいて一マイル行かせようとするなら、その人と共に二マイル行きなさい。 41節

イエス様の時代、ユダヤの国はローマに支配されていて、急に仕事をさせられることが多かったのです。無理矢理一マイル先まで行きなさいと言われたら二マイルでも行きますという心でいなさいというイエス様の教えです。お父さんから、「あそこの店で買ってきて」と頼まれて、「いや！」「自分で行けば」とか言いますか？ そうではなく、「ハーイ！ 行って、買ってきますよ、他に買うものない？」と言うのが二マイル精神ですよ。スマイルでね！

祈り 天のお父様、無理矢理、何か頼まれても、いやがらないで、頼まれた以上のことを喜んでできますように。

6月25日（木）



マタイ 5・42

求める者には与え、借りようとする者を断るな。 42節

天の父の愛は、いつでも相手のことを思い、相手の心を大切に、相手が望んでいることをしっかり満足させてあげたいという、思いやりいっぱい愛だということがわかってきませんか？ 自分のことしか考えられない人の心は小さく貧しい、愛のない心なのですね。だから求める人が求めてきたら、与えるのです。もちろん何を求めるかにもよりますが、借りたいという人には、断らないで貸してあげなさいと言われます。相手の人はどんなにか感謝でしょう。

祈り 天のお父様、あなたの愛にあふれた心がかわかってきて、とてもうれしいです。求める人の心にこたえてあげたいです。

6月26日（金）



マタイ 5・43~44

敵を愛し、迫害する者のために祈れ。 44節

昔ユダヤ人たちは、「隣人を愛し、敵を憎め」と言っていたようですが、イエス様は、「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」と言われました。これこそ、父なる神様の愛、ギリシャ語で特別な言葉を使いますが、『アガペーの愛』そのもので、愛のクライマックス（頂点）だと思います。「えーっ、そんなこと、敵を愛するなんて、できるの?!」と思うでしょう。その鍵は、『祈り』ですよ。迫害する者のためにも祈る、敵のためにも祈る（!）と、心が変わっていくのです。

祈り 天のお父様、お祈りは不思議で、素晴らしいものです。お祈りで、あなたの愛の空気が心に入ってくるのです。

6月27日（土）



マタイ 5・46~48

あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となきなさい。 48節

天の父なる神様も、イエス様も、神様なので「完全」です。でも、「私たち人間は、みんな罪人だったし、弱いし、そんな完全な人間なんて、絶対になれっこありませんよ」と思えますよね。もちろん、失敗したり、また罪を犯したりする私たち、そのつど、おわびし、十字架を仰いでゆるしていただきます。が、この「完全」は、「愛することにおいての完全」ですよ。「天の父のように、私も同じように愛していきます」という完全です。

祈り 天のお父様、あなたの愛に満たされ完全な者として生きて、まわりの人にあなたのことを知らせてあげたいです。



聖書
テーマ
暗唱聖句

マタイ 6・7～13

主の祈り

御国がきますように。みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように。 マタイ 6・10
意味を知って「主の祈り」をささげる者となる。

目標

6 月 28 日 (日)

聖書
聖句

マタイ 6・7～8

あなたがたの父なる神は、求めない先から、あなたがたに必要なものはご存じなのである。 8節

今週は、イエス様が教えられた「主の祈り」を学びます！ その前に、大切なことをひとつ。祈りは、同じことをダラダラなが〜く祈ればいいのではありません。たとえ短くても、しんけんに心をこめて祈ることが大切です。

イエス様は言われました、「神様は、あなたがたが祈る前から、必要なものを知っておられる」。えっ？ じゃあ、祈らなくてもいいんじゃない？ いいえ、自分のお願いを祈ることだけが祈りではないんですよ。「主の祈り」をとおして、わたしたちが本当に祈るべきことを学びましょう。

祈り 天のお父様、わたしが本当に祈るべきことを教えてください。

6 月 29 日 (月)

聖書
聖句

マタイ 6・9

天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。 9節

わたしたちは「天のお父様！」と神様に呼びかけますね。それは、「全宇宙を治めておられる、わたしたちのお父さん！」と呼んでいるのです。世界中の人が、天のお父様だけをほめたたえますように！ という祈りです。これが、イエス様がいちばんはじめに教えてくださった祈り。

わたしたちの周りには、天のお父様以外の、人間がつくった偶像がいっぱいありますね。天のお父様を知らない人、信じようとしない人が押んでいます。天のお父様はどんなに悲しんでおられることでしょう。だからこそ、わたしたちが、まずいちばんに祈るべきことなのです。

祈り 天のお父様、あなただけがほめたたえられますように、まずいちばんに祈ります。

6 月 30 日 (火)

聖書
聖句

マタイ 6・10

御国がきますように。みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように。 10節

次は、神様だけが治める国が早くきますように、そして神様のみこころが、この地上で行われますように！ という祈りです。わたしたちの心を神様が治めてください、わたしたちを通して、みこころを行ってください！ という意味もあります。

わたしたちが住んでいるこの地上は、神様が悲しまれる罪でいっぱいです。ですから、この祈りは本当に大切な祈りなのです。神様が治めてくださる国とみこころが、わたしたちから広がって行くように祈りましょう。

祈り 天のお父様、わたしたちの心を治めてください。わたしたちを通して、神様の治める国とみこころが広がりますように。

7月1日（水）



マタイ 6・11

わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください。 11節

次は、わたしたちに必要なものを求める祈りです。毎日のお食事、着る服、住む家、など。わたしたちが食べるご飯や着る服は、あるのが当たり前ではありません。たとえば、地震がきたり、火事になったりしたら、何もかもなくなってしまう可能性が誰にでもあるでしょう！

すべてのものは、わたしたちの必要を知っておられる神様が与えてくださっているのです。それがわかると、この祈りの大切さもわかりますね。神様に心から感謝し、わたしたちにとって必要なものを与えてください、と祈りましょう。

いの祈り 天のお父様、わたしたちの必要をいつも与えてくださり感謝します。これからも必要なものをとお与えください。

7月2日（木）



マタイ 6・12

わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしてください。 12節

「負債」というのは、ここでは罪のことを言っています。わたしたちに罪を犯した人をゆるしたように、わたしたちの罪をゆるしてください、という祈りです。

イエス様は命を捨てて、わたしたちをゆるしてくださいました。イエス様にゆるされた人は、ゆるされたことを感謝して、ゆるす人になるのです。怒りや憎しみだらけの世界なのに、「ゆるします」と祈れるのは、なんとすばらしいことでしょう！ わたしたちがゆるされたことと、わたしたちがゆるすこと。これはいつもワンセットです。

いの祈り 天のお父様、イエス様がゆるされたように、わたしもゆるす人になれるように。

7月3日（金）



マタイ 6・13

わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください。 13節

この祈りは、わたしたちが嫌なことにあいまませんように！ という意味ではありません。わたしたちを神様から引き離す悪い力から、守ってください！ という祈りです。かんちがいしやすいのですが、自分にとって嫌なことにあうことがほんとうの問題ではないのです。ほんとうに問題なのは、神様から離れてしまうこと。

罪のゆうわくという悪い力は、いつも、わたしたちをおそってきます。自分の力に頼っていたら、あっという間にゆうわくに負けて、神様から離れてしまいます。だから、神様に頼って、まもっていただくように祈るのです。

いの祈り 天のお父様、神様から引きはなす悪い力から、どうぞおまもりください。

7月4日（土）



マタイ 6・7～13

御国がきますように。みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように。 10節

わたしたちは、自分のお願いを祈ることが祈りだとも思いがち。でも、イエス様はわたしたちが本当に祈らなければならない「主の祈り」を教えてくださいました。教えられたすべての祈りの中に、神様のみこころだけが行われますように、神様のみこころをわたしたちに行ってください、という意味がこめられています。

自分勝手な人の願いは、主の祈りにはありません。かんぺきなお祈りです。

これからは、主の祈りのほんとうの意味を考えながら、心をこめて祈っていきましょう。

いの祈り 天のお父様、これからは「主の祈り」をなんとなく祈らないで、心をこめて祈ります。